

令和 7 年度学校評価計画書

重点目標	主担当	現状	具体的取組	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備考
安心、安全な学校	生徒指導	交通事故の報告は少ないが、一般の方から注意を促す連絡がある。	人波作戦などの実施や交通安全について日常的に指導をしていく。	【生徒調査】	交通ルールを遵守していると答えた生徒割合 A：95％以上 B：90％以上 C：80％以上 D：80％未満	C、Dの場合、改善策を検討する。	2月に調査する。
	生徒指導	本校のみならず「いじめ」については常に注意しなければならない。	定期的なアンケート調査の実施や生徒情報の共有を通して、全職員が連携して「いじめ」を根絶して、安心できるよう努める。	【生徒調査】	「いじめ」等がなく安心できる学校と答えた生徒割合 A：95％以上 B：90％以上 C：80％以上 D：80％未満	C、Dの場合、改善策を検討する。	2月に調査する。
時代の変化に対応した進路指導	進路指導	近年、進路希望が多様になり、大学の入試形態も複雑になっている。	本人の志望を優先した進路指導を実施。進学指導では学校推薦型選抜、総合型選抜、一般選抜すべてに対応し、就職指導では個別指導を充実させる。	【進路結果】	志望校への合格、就職内定が実現した生徒割合 A：90％以上 B：80％以上 C：70％以上 D：70％未満	C、Dの場合、改善策を検討する。	年度末に集計する。
				【3年生・生徒調査】	本校の進路指導に対して概ね満足と答えた生徒割合 A：90％以上 B：80％以上 C：70％以上 D：70％未満	C、Dの場合、改善策を検討する。	2月に調査する。
探究的な学び、キャリア教育の充実	教務	授業は落ち着いているが、受け身である生徒が少ない。理解したことや習得したことを活用したり探究したりする力は弱い。	授業に話し合いや発表の場面を増やし、生徒が主体的に取り組む力を身に付くよう努める。	【生徒調査】	話し合いや発表など積極的に授業に参加したと答えた生徒割合 A：90％以上 B：80％以上 C：70％以上 D：70％未満	C、Dの場合、改善策を検討する。	2月に調査する。
	進路指導	高校卒業時の進学や就職だけではなく、一人ひとりの社会的・職業的自立に向けたキャリア教育の推進が求められている。	学校教育では常にキャリア教育を意識するとともに、職業講話、インターンシップ、学部学科説明会等を実施し、将来を見据えた行事を取り入れている。	【生徒調査】	進路的行事が将来の進路に役立っていると答えた生徒割合 A：80％以上 B：60％以上 C：60％以上 D：50％未満	C、Dの場合、改善策を検討する。	2月に調査する。
ICTを活用した教育活動の推進	教育研究	県立高校は令和8年度入学生よりタブレット端末の個人購入が始まる。授業でのICTの活用をより推進して行く必要がある。	研修や教員間での情報交換を通して、授業でのICT活用機会を増やしていく。	【教員調査】	教員への、授業でのICT活用調査 A 効果的に活用している B ある程度効果的に活用している C あまり効果的な活用になっていない D 活用していない	A、Bの合計が80％未満で改善を検討する。	2月に調査する。
活気と笑顔のある学校	全教員	真面目で落ち着いた学校であるが、より一層、活気のある学校をめざす。	自発的な挨拶を継続して推奨する。	【生徒調査】	自ら進んで挨拶できていると答えた生徒割合 A：90％以上である。 B：80％以上である。 C：70％以上である。 D：70％未満である。	C、Dの場合、改善策を検討する。	2月に調査する。
	生徒会		生徒会行事等において、生徒各自が責任感を持って取り組み、主体性と協働性が高まるような働きかけを行う。	【生徒調査】	生徒会行事に積極的に取り組んだと答えた生徒割合 A 90％以上である。 B 80％以上である。 C 70％以上である。 D 70％未満である。	C、Dの場合、改善策を検討する。	2月に調査する。
	全教員		授業（実習含む）や部活動などの日々の教育活動の充実について継続して取り組む。	【生徒調査】	学校生活が充実していると答えた生徒割合 A 90％以上である。 B 80％以上である。 C 70％以上である。 D 70％未満である。	C、Dの場合、改善策を検討する。	2月に調査する。